2024.7.25「色と感触であそぶ」 絵の巣、画用紙、澱粉のり、筆、ヘラ、スポンジ

～　見守る眼差し　～

絵の具と紙と筆を子ども達の前に置きました。
大人は何をするとも言わずに、「待ってね」「順番ね」の声もなく、
自由な雰囲気の中で始まりました。

子ども達は、画用紙に絵の具を塗り、手を浸し、容器に移し替え、混色し、
机や床に描き、絵の具、水、色、量、感触などを探求していきます。

澱粉のりを出すと、ちょっと手に塗っては洗いに行き、また戻って手に塗る、
を繰り返す人がいます。何を楽しんでいるのでしょう。
青い絵の具を容器に注ぐことを繰り返す人がいます。
「あお、いっぱい、パパ」 という片言の中に、どんな文脈があるのでしょう。
筆を握りしめて、ぼんやり周りを見ている人がいます。「やめるの？」と聞くと、
違うと言わんばかりに「ふん！」と拒否されます。まだやりたいようです。

子ども達は何を感じ、心の中に何が起きているのでしょう？

「やってみる？」「こんなことできるよ」と、ちょっとした投げかけで、
子どもの体験が広がる時もあります。
「きれいね！」と言った瞬間に、集中を妨げてしまう時もあります。
ほめたり、やらせようとしなくても、自分で見つけていけるようです。

声掛けにも量や質がある。
いつ、どんな投げかけをしたらいいのでしょう？

正解やマニュアルはありません。
とにかく子どもの様子、表情をよく観て、何を感じているのか、を
想像するしかありません。

やりたい事に没頭し、ふと視線を上げると、大人達の見守る眼差しがある。
それだけで、安心して探求の冒険ができます。

子どもの様子を知っていると、画用紙の痕跡に、その子が何を感じていたか
が生き生きと表現されているのが見えてきます。

探求を見守りながら、その表現を大切に受け止めたいと思います。